

P・I・A シート

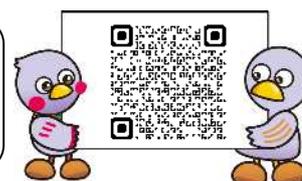
～「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善 実践事例～
小学校（音楽）編 ① 概要

校種・学年	小学校 第6学年	教科等	音楽
題材名	いろいろな和音のひびきを感じとろう		
題材の目標	音やフレーズのつなげ方や重ね方の特徴を理解するとともに、音楽の仕組みを用いて音楽をつくる技能を身に付ける。		
本時のねらい	<p>イメージに合った音楽づくりのために、『児童が思考・判断する拠り所となる音楽を形づくっている要素』を適切に取り入れながら、自らの思いや意図をもって音楽づくりができる。</p> <p>【『児童が思考・判断する拠り所となっている音楽を形づくっている要素』は以下のものを扱う】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・速度・音色・くり返し（続く感じ）（終わる感じ） 		
本時の評価規準	<p>【評価の方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業観察 ・タブレット上の楽曲作品及びワークシートでの説明文で補完 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体のまとまりを意識した音楽づくりができる。 ・表現したい音楽のイメージにあった音楽づくりができる。 		

事例の概要(見どころ)

- ①学習用端末上で、和音構成音からの「音楽づくり」を二人一組で行い、個人で作成した旋律を協働編集し、一つの楽曲につなげる。
- ②イメージ画像スライドに作成したデジタル音源を挿入し、作成時に工夫したことを「児童が思考・判断する拠り所となる音楽を形づくっている要素」と関連させた説明文をつける。

発行：令和4年12月
埼玉県教育局南部教育事務所
<https://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/g2201/index.html>



その他のP・I・Aシートはこちら ↑

・個人で作った旋律をペアの協働作業により、つなぎ合わせて一つの楽曲にする。

- ①各自が既定の和音進行に沿って作成した旋律を、ペアでつなぎ合わせる。
- ②事前に共有したイメージに合った音楽となるように対話を重ね、めあてで示されたポイントを入れながら音楽づくりを進める。
 - ・「続く感じ」と「終わる感じ」について考えること
 - ・最後の音は「ド・ミ・ソ」のいずれかとする（和音構成音）
 - ・イメージに合った音楽になるために、何を工夫したのかについて対話を通して、言葉や文字に表せるようにすること
- ③作成した曲をイメージ画像と合わせて発表用のスライドを作成する。

ICT 活用について

【ICT 端末を活用し、音楽づくりを行う】

・ワークシートではなく、学習者用端末を使って音楽づくりをする。

・本時では、個人で作成した4小節の旋律からペアでつなぎ合わせて、8小節の旋律づくりへと、タブレット上で協働編集していく。

【活用することで得られるメリットについて】

- ・一人一人の活動（思考）するペースに合わせて学習を進められる。
- ・児童同士で学習の共有化や記録がしやすい。
- ・演奏が苦手でも、つくった音楽を表現できる。
- ・協働作業により、音を介したコミュニケーションを通して、一人では気づけない工夫を見だし、思考を広げたり、深めたりすることができる。

展開
35分

良かった点

【音楽を試したり、確かめたりしながら、音を介したコミュニケーションのなかで「共有と共感」のある授業が展開していきます。】

☆前時まで、どのようなイメージの音楽をつくりたいかについてペアで共有し、発問に沿った対話を重ねながら、作成した旋律をつなぎ合わせています。タブレット上で協働編集し、音を確かめたり試したりしながら、音を介したコミュニケーションがとれています。

【あるグループの対話から、思考の広がりを感じられました。】

- 児童A『最後の音に向けて低くなって落ち着いて終わる感じにしたいと思うから、こんな風になりたい』 →音楽を試す
- 児童B『その感じいいね。じゃあ、続く感じの部分少し音を高くしてみようかな。これでどう？』 →音楽を確かめる
- 児童A『良いと思う』

【評価の留意点】

机間指導による授業観察を行い、個人の音楽づくりへの想いや意図が、協働作業により見えなくなってしまうないように、見届けていく。また、児童には音楽づくりへの想いや意図について、スライド等に記録をさせるようにし、観察の補完とする。

授業改善の視点

【授業者は机間指導や、授業観察で児童の学習の状況を丁寧に見とっていきます。】

☆授業者は、机間指導において個人の進捗状況を確認し、適宜補助発問をしながら、音楽活動が展開できるように支援します。また、観察による見届けを丁寧に行います。

【観察において進捗状況を把握すること、児童が思考を広げたり、深めたりするための十分な音楽活動の時間の確保が求められます。】

- ・活動前に具体的な指示があり、「めあて」が児童にとって自分事となることで、音を介したコミュニケーションが活発に展開できます。
- ・児童の吹きをクラス全体に広げて、クラスを巻き込んだ展開も効果的です。



・児童の音楽に込めた思いや工夫を、音からだけでなく、視覚的にも伝えることができるように、画像挿入や文章入力した発表スライドにまとめていく活動を取り入れ適宜机間指導で支援する。



・イメージに合った音楽にするために、どのような工夫をしたのかについて、対話を通して文字や言葉で表すことができるように、机間指導しながら、支援する。

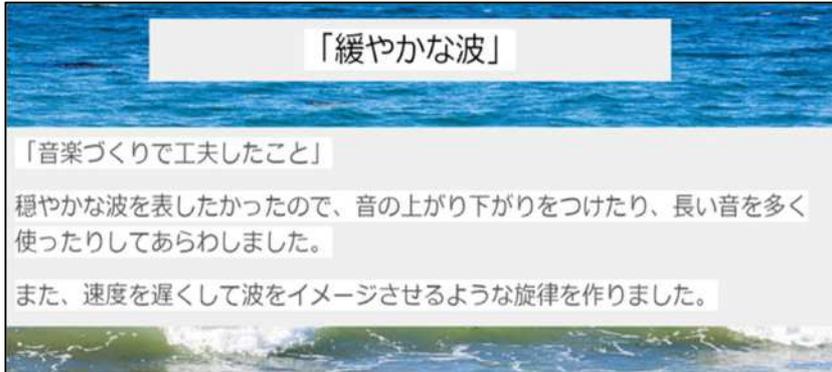
【机間指導時の留意点】

児童の作業の支援をしながら、
①児童の対話や吹きをひろう。
②児童が学習を調整しようとしている姿を机間監視しながら見届ける。
③児童の思考の広がりや深まりを授業前と授業後の作品から、見とれるよう、作品を記録する。これら3点の見とれなかった部分の補完として、タブレット上に工夫したところを文章でも入力させる。

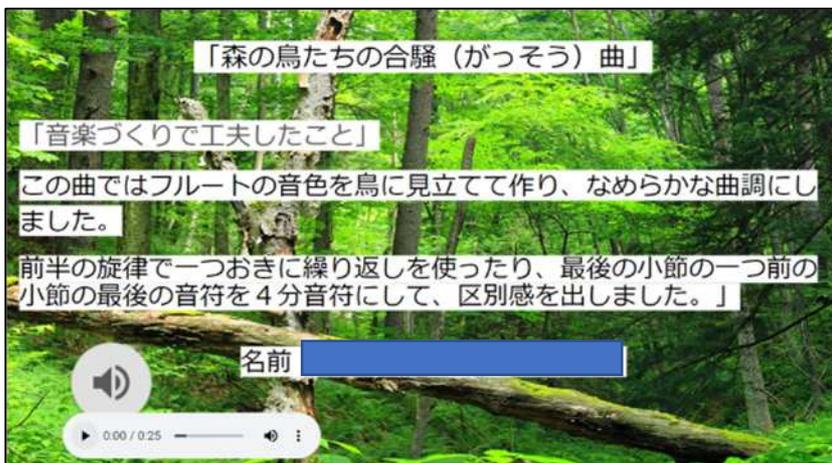


(様式 2)

- ・スライドにまとめた作品を、次時で発表できるように準備する。
- ①タブレット上で、他のグループの曲のスライドを聴いたり、見たりする。
 - ②イメージした画像と音楽になるよう、どの部分を工夫したのかスライドに入力する。
 - ③スライドに作成した音源を挿入し、発表用のスライドを作成する。



まとめ
4分



- ・ペアでの音楽活動に視点を当て、児童が十分に音楽を試したり、確かめたりしながら作品作りができる時間の確保に留意する。



- ・本時では、クラス全体で意見や考えを交流する場面の設定はないが、発表準備が進んでいるペアは、タブレット上で他のグループの作品を参考に見ることもできるよう、授業者から声かけをする。

授業改善の視点

【まとめと振り返りも、次時への大切なステップです。どのような発問をするかが大切です。】

☆まとめは「今日、何ができるようになったのか」を教師と児童で整理することです。
振り返りは、学習を通して考えたことや感じたことを、自身で振り返ることです。

【振り返りにつながる発問例として、こんなことが考えられます。】

- ・作品を合作したことで、個人で作った曲と比べて、どのような変化を感じることができましたか。
- ・イメージ画像に合わせて作成した音源の音色は、どのような理由から選びましたか…など。